

Where there is no Vision, the people perish

2016年12月

北九州信徒聖書学校

第127号

月刊

על-פלוי מים

流れのほとり

連絡先 〒807-8691 北九州市八幡南郵便局私書箱 26 号 本部 TEL&FAX 093(692)8592

所在地 〒807-0004 北九州市小倉北区鍛冶町 2-3-13 北九州 YMCA 内

HP <http://1985bible-school.com>

E-Mail hope_to_tomorrow.y@san.bbiq.jp

小さく始めなさい

理事長 山口 晶久

一人のご婦人のことです。この世の学校と呼ばれる教育を十分に受けることが出来なかった。ある日、救いを経験し、このような私でも神様のご用に役立ちたい。できれば聖書学校か神学校で学びたいと思った。そう願っての行動は速かった。関係の学校に問い合わせた。しかし、受け入れる学校はなかった。せめて高校は卒業しておいて欲しいと、残念ながら彼女の生い立ちでは、学歴を問われると厳しかったと言う。「私のような者は学ぶことは出来ないのですか?」。その悲痛な涙目の顔は、今でも忘れることは出来ません。

そのような彼女の願いを可能にしたい。実に素朴な思いでした。聖書を神のことばとして真摯に学ぶ、超教派で夜学。そして学歴を問わない。自らの信仰の自立のために学ぶ。そのために数年間の準備がなされ

「福音主義に堅く立ち信徒の自立を目指し、各教会に仕える信徒を訓練養成する」を目的とし、1985年に本校は開校されました。入学者は、第1期生は本科26名、ギリシャ語3名の方々でありました。JR小倉駅そばの日本キリスト教会小倉教会を教

室としてお願いしました（仮教室になる小倉教会、そして牧師の河田一雄先生は初代校長となられた）。

開校当日、キリスト教主義学校である折尾愛真学園創立者増田孝学園長先生は「見よ、わたしが飢饉をこの国に送る日が来る。それはパンの飢饉でない。水に渴くでもない。主のことばを聞くことの飢饉である」（アモス8章11節）を引用なさり、この100万都市北九州の地に幾万の企業が興ろうとも、みことばを学ぶ学校が起るほど相応しいものはない。そして、スイスの哲学者カールヒルティのことば、「何事も小さく始めなさい。その小さいことに勤勉で忠実でありなさい。すべて偉大なものは小さく始まるものだ。最初から大騒ぎして始めるものは、やがてその後は跡形もなく消え去ってしまうであろう」と話されたのです。今から31年前になります。当時を思い出します。

さて、私たちの生涯の折々に、志を立てることはとても大切だと思います。文字の「志」という字。士+心です。「こころざす」は心がある方向を目指す意味で「心指す」が語源だそうです。「人間、志を立てるのに遅すぎることはない」とは、イギリスの政治家で首相も務めたスタンリー・ポールド



入学式

ウィンという人のことばです。歴史上の江戸時代後期の人。伊能忠敬は50歳のときに隠居し測量学などを学びます。忠敬は73歳で亡くなりますが「大日本沿海輿地全図」を完成します。ご存知の通り余りにも有名な話です。このような話を聞きますと、今からでも遅くはない。奮起したくなります。

自らが、心ひかれるものがあり、本校で学んでみよう。その意思が働き行動なさり、本日の入学式に臨まれました。しかし、別の視点、見方で考えてみますと神様のご計画があったと思います。ちょうどガリラヤ湖畔で網を打っていたペテロとアンデレに、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」との主イエスの呼び声に似ているように思えるのです。英語の calling は「神のお召し」です。すなわち、あなたの生涯を神と人々のために用いて欲しい。神様の願いがあるように思えてならないのです。

では、学校で神のことば、聖書を学ぶ。そのために何が必要であるかということですが。旧約聖書を読みますと、歴代誌下17章に、ユダ国の第4代アサの子ヨシャファトという王のことが書かれています。王は、父アサ王と違い父祖ダビデがかつて歩んだ道を彼も歩み、先祖の神を求めその戒めに従って歩んだと紹介しています。「主はヨシャファトと共におられた・・・」。そして「主は彼の手にある王国を固め・・・大いに富み

栄えた」とあるのです。王はよく国を治めます。そこで見逃してはならない注目する聖書箇所があります。「ヨシャファトの心は主の道にとどまって高められた」ということばです。英語では His heart was lifted up in the ways of the lord と訳してあります。父アサ王の後を継ぎ35歳で王となり25年間王位にあった。父の死により若くして即位したヨシャファトはなすべき事は多くあったに違いないと思われます。あの事この事とやらねばならない出来事が大波のように迫り来る。精神と心は乱れ飛んだでありましょう。しかし、多事多難であったとしても、ヨシャファトはそれらいっさいを置いて、神の前に自らを整えることに専心したのです。それゆえ国は主によって堅く立てられたのでした。

私たちにおいてもなすべきことは多くあります。その中で、神を第一としていくときに、主にある勝利に預かる生涯があることを思います。「先ず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう」(マタイ 6章 33 節)。主イエスの約束のことばです。みことばの学びが始まります。学びの時間を聖別し互いに整えられつつ臨みたいと思います。

(2016年5月13日入学式祝辞)

特別な神の導き

校長 野村 幸生

本校での学びを志して下さり、学ぶ意欲を表して下さっていることに感謝いたします。また、学びたいという志＝思いと、それがかなうためには境遇＝環境の両方が必要です。学びたいという志＝思いがあっても、その境遇が与えられないということもあります。また、毎金曜日の学びの時間を確保することは大変なことと思います。その

ことをも含めて、志をもって下さったことを感謝いたします。

私たちの北九州信徒聖書学校では、学ぶために入学試験はありません。牧師先生の推薦状と本人との面接だけです。学びたいという志を尊重します。学力は問題にしておりません。普通の「学校」というところに、通常あるはずの「テスト」は、本校にはありません。ただ、学んだことを確認の意味で文章化してまとめることはお願いしています。安心して学んで下さい。北九州信徒聖書学校で学ぶ機会が与えられたということは、特別な神様の導きと受け止めて励んで下さい。

そして、学びの中で、ご自分が救われていることの意味を、もっともっと深めて下さい。救いが何にもかえがたいすばらしい価値ある宝であるということについて、その意味を深めて下さい。私たちが救われた、クリスチャンになった、罪赦されたということは、ただ死んでから天国に行けるということではなく、今、この世に生きている生活の中で、かけがえのない、そのひとり子を神様が私たちに与えて下さるという。そのことが、どれほどすばらしい事なのか。味わっていただきたいのです。また、素晴らしさを人々に表すと同時に、同じ救いに預かっている者同士が、互いに確かめ合い深め合っていたいただきたいのです。

私たちが、救いの素晴らしさを深く味わい知ることができれば、たとえ私たちがどのような境遇に置かれたとしても、また、今までの人生がどのようなものであったとしても、どんなに悔やみ事の多い人生であったとしても、それは問題でなくなっていくのではないのでしょうか。これが私たちクリスチャンにとっての成長ということでしょう。これこそ、ペテロが第二の手紙の最後で勧めていることです。「私たちの主であ

り救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさ」(Ⅱペテロ3;18)。

私は、聖書を学ぶ上で必要なことは、広い視野を持つことを心がけるということです。そのために、本校では超教派という立場をとっています。北九州を中心にいろんな福音的立場の牧師先生方を講師としてお願いしています。神学的に立場の違う先生方からも学びます。視野を広くいろいろな角度から学んでいただきたいと思います。聖書学校ですから、聖書の学びが中心です。その他、教会史やキリスト教教育、また伝道についてなど幅広く学びます。聖書そのものによくふれて学んで下さい。

その際、聖書について、まず聖書そのものに書かれていることをよく読む。観察する。次にその意味を、文脈、聖書の用語などから把握する、解釈する。そして実際に自分に当てはめる。適用というふうに学びます。最後に、ここ「曲解し」(3;16)ということばがありますが、これは「端的な解釈」という意味です。端的な解釈を避け、聖書を正しく読み学ぶことにお励み下さい。私たちも共に学んでまいりたいと思います。

(2016年5月13日入学式式辞)

2016年度入学式

2016年5月13日(金)午後7時より入学式。於北九州YMCA。司会広川和行教頭、賛美歌332(主はいのちを)、聖書祈祷 原田昌樹牧師、新入生点呼 上山信弥牧師、式辞野村幸生校長、新入生代表宣誓、讃美歌502(いともかしこし)、祝辞 山口晶久理事長、頌栄540(みめぐみあふる)、祝祷 塩屋弘牧師。

入学者氏名 本科 第30期生

森 純子(単立宗像キリスト教会)

岩井加奈子（北九州リバイバルチャーチ）
杉本 輝（単立聖家族教会）
信徒説教者コース第14期生
廣川 和子（日本キリスト兄弟団新下関教会）

北九州信徒聖書学校同窓会

教会訪問・公開第13回セミナーが開催された。日時、9月19日（月・祝）10時30分～14時。訪問教会日本バプテスト連盟高須キリスト教会。第1部。開会祈祷、讃美歌514、独唱井上千鈴姉、聖書コリント第1手紙15章1～11節、講演「神の恵み」三上 渡牧師。質疑応答。讃美歌91、献金、祈祷。昼食。第2部。協議と懇談（1）挨拶木本正徳会長、（2）協議①学校支援②同窓会強化③ピスガ建設現状報告。第3部、賛美のとき13時30分～14時、指導山本昌子姉、閉会祈祷。



（2016年9月19日 場所高須キリスト教会）

特別講義

全能の神に寄り頼むんじゃ！
信徒伝道者・安部哲伝道実戦から学ぶ

フリーライター 野口 和子

安部哲の伝記一冊をいただいた。一読しただけで、その桁外れの信仰にびっくりした。福岡県生まれ、おおらかな人柄と同時に繊細な気配り、そして神以外何者をも恐れない態度に、すっかりほれ込んだ。私は、生前の安部に会ったことはない。伝記を読んだだけで信仰の火で燃やされたのであ

る。その取材を終え伝記「この愛に捉えられて一信徒伝道者・安部哲と霊満クルセード」を、2012年4月出版することができた。

安部の実家は、福岡県下の大地主で代々浄土真宗の檀家総代という家柄であった。若い時に寺で修行し在家の僧資格を取った。煩惱に翻弄されやすい自分を修行によって変えたかった。安部は、ひよこの雄と雌を鑑別する鑑別師として卓越した能力の持ち主である。仕事の拠点をノルウェーに置いて日本を往復した。ある時、ノルウェーで知り合った元在日宣教師に勧められて聖書を3年間学ぶが、仏教で苦行を重ねることで救われると教えられてきたせいで、「イエス・キリストを信じるだけで救われる」「悔い改めれば罪が赦される」ということをどうしても受け入れることが出来なかった。

1965年のある晩、地獄に突き落とされる幻を見て恐怖のあまり叫んだ。長年仏道修行で口ずさんできた「南無阿弥陀仏」の经文でなく、「イエス様、神様、助けて下さい！」であったと言う。その時に、光の中に入れられたのである。こうして救いはただイエス様のみであることを体験し、直ちに入信した。

一年の半分はノルウェーを拠点にし、鑑別の仕事や技術指導で各国を巡回し、土日は伝道した。そして年の半分は日本に戻り、鑑別師として東京本部、地方支部での会議及び指導をし、仕事が終われば教会で証し伝道した。救われて2年後の1967年に伝道団体「霊満クルセード」を設立する。代表となり自分を小使い（使用人・神の僕）と名乗った。当時、ソ連や東ヨーロッパの社会主義諸国では、鶏肉や卵は手っ取り早い栄養源だった。それで安部は卓越した鑑別技能を求められ、人々から国賓なみの待遇を与えられ税関も無審査で入国できた。このように宣教師が絶対入国できない共産圏

諸国に、安部は1966年から聖書をひそかに持ち込んで配布したのである。共産圏伝道の草分け的存在となった。

鑑定師は特殊な技能者なので高給だった。安倍は平均収入の10分の7を献金し、10分の9献金をめざした。また、迫害され投獄された伝道者の留守家族にひそかに献金を届け続けた。これは信徒でなければ出来ない伝道だった。まさに、仕事と伝道は車の両輪だった。税関の検閲が一番厳しかったルーマニアに入国した。ノルウェー特産の1mほどの鮭を燻製にし、胴体をくりぬいて聖書を並べて、何食わぬ顔をして鮭に隠した聖書を持って税関を通り抜けた。とはいえ、何度も入国を繰り返しているうちに感づかれ投獄され拷問を受けたりもした。しかし、安部は神以外何者も恐れない。「棺桶を担いで行く気になれば（無事に帰ってこようと思わなければ）、世界中どこでも行けないところはない」が口癖だった。その後、共産圏諸国の税関では、安部の名前はブラックリストに載り入国できなくなっていた。

1970～80年代。日本の高度経済成長に伴い、海外に移住する日本人が増えていった。それを察した安部は、ヨーロッパ日本人伝道へと転換し日本人がいると聞けば直ちに訪ね、家庭集会をつくるように勧めながら証し伝道を続けた。これがやがて各国の日本人教会の基礎となる。安部は、戦時中に一兵卒としてすさまじい飢餓線上を生き残った体験から、人が生きる上で、霊だけでなく肉の必要を満たされなければならないことを知り尽くした。このような話をする人がいた。「真似できないわ。あの人は特別な人よ」と。安部は、「わしは出来ることをしとるだけじゃ。神様がさせて下さる。伝道は自分の力でするもんでなか。全能の神により頼んでするとです」と言っている。

十字架上で安部の罪を贖い地獄に行くはずだった運命を天国へと転換し救い上げて下さった。そのイエスの愛に応えたい。それは、このイエス様の福音を伝える以外にない・・・この純真な魂を、神は愛し信頼し聖霊に満たし用いて下さる。その聖霊の力が、安倍のエネルギーの源であった。神の愛にひたすら忠実に応えようとするなら、どんな者も、神は置かれた場で用いて下さるのである。

安部の証し録音テープを聞くと、初めの祈りで「イエス様」と呼びかけたとき、もう涙声になって声が續かない。幼子のようにイエス様を慕っている。実際に安部の目はイエス様を見ていたのかも知れない。「わしは神学校を出ておらん。神学も何も知らん。ただ復活のイエス様が生きて働いておられる、わしの伝道を助けて下さる」。この確信に立って証し伝道した。証の内容は救い体験であった。各国の伝道では原稿持たずに、そのつど御霊に示されたことだけを語った。安部は口下手だった。しかし、言葉にも行動にも聖霊の力がみなぎっていた。つまり神様の臨在を持ち運んだのである。「私の言葉と私の宣教とは、説得力のある知恵の言葉によって行われたものではなく、御霊と御力の現れでした」（Iコリント2:4）とあるように。

安部は、「人間が自分の力により頼んでいる限り、聖霊が働いて下さる余地はない。『もう、何も出来ません』とお手上げの状



特別講義 場所北九州 YMCA

態になった時に神様は助けて下さる。神が共にいて下さる。私たちに出来ないことはない。ただ怠けてしないでだけじゃ!」。ある時は「み言葉を宣べ伝えなさい。時がよくても悪くとも・・・」とのみ言葉が与えられ聖書を運んだ。迫害がひどい、だから行く時でない、引き止める人が多かった。しかし、安部は人の言葉に影響されない。聖霊の導き、お言葉の通りに歩き(行動し)、全身で見、聴き、心にふれる。お言葉は真実で確かなものとの確信が与えられていた。主は今も生きておられ、力を与え導いて下さる。行動によって知ることが出来る、心から感謝すると。また、神は「わたしに彼らに、わたしが主であることを知る心を彼らに与える。」(エレミヤ 24;7)と言われた。それを神様ご自身が聖書を通して、頭で憶えさせるんじゃない。み言葉を実行する中で、行動の中で、直接に教えて下さる。み言葉というものは、学問ではない。

安部は聞き手が一人でもいれば、どこでも自費で出て行き証し伝道した。証を難しく考えないで一分間でもいい。人は聞いていないようでも聞いている。聞いた証しは本人が忘れていたようでも心の底に留まっている。寝ている時でも、神様がその人に働きかけて下さる。だからある日「そうだ! 教会に行ってみよう」と思うかも知れない。

「主はその愛する者には、眠っている間にこのように備えて下さる」(詩編 127;2)のであるから・・・。

数年前、「海賊と呼ばれる男」、出光興産創業者出光佐三の伝記が売り出された。彼の商法は常識の枠を超え大胆不敵だった。若い時には「海賊」と呼ばれ石油業界の異端児と見なされた。出光は、安部より 28 歳年上、クリスチャンではなかったが、共に福岡県生まれ。安部の先祖は水軍と呼ばれた海賊。室町時代に東シナ海を荒らし回

ったそうだ。安部は、いわば海賊の子孫と呼ばれた男だった。この二人に共通なこと、それは独創性に富み、長いものには巻かれない独立精神、気骨あるサムライ精神、信念を貫く情熱があった。数年前、安部が生れた九州の福岡県古賀市郊外の生家の周りを歩いてみた。工場団地が出来ており、新しい家並みが続いた。かつて安部家はその界隈きっての大地主だったが、時代は農業から工業へと明らかに変貌していったことがわかる。世と世のことはそのように移ろい行く。安部は変わらないもの、朽ちないもののために、家柄や財産を放棄した。

人は、信念や信仰を貫く生き方に励まされ、憧れを抱く。出光佐三の伝記がベストセラーになったことがそれを表している。「こういう人の下で働きたい。でも、今の日本にはこのような信念の人はもういない。信念を貫くことなんかできないのだから」と言うのが、ほとんどの読者の感想であった。今日の講演主題は「全能の神により頼むじゃ!」であった。人には出来ないが神には出来ると言い切り、それを実践していた安部の生き方を、神が安部をどのように用いられたか。ここにご紹介し、皆様方の励ましになれば幸いです。

(2016 年 10 月 7 日特別講義要約)

安部 哲 (1913~1989) ひよこ雄雌鑑別師、福岡県古賀市(旧青柳村)で大地主の長男として生まれる。1932~34 年ひよこ鑑別競技大会で 3 度世界一となる。浄土宗の在家僧として得度。ひよこ鑑別指導に渡欧。1939 年結婚。1947 年太平洋戦争でガダルカナルやインパールなど激戦地から奇跡的に生還。1965 年ノルウェー・ブリーネで救われ、神戸・青山ルーテル教会で受洗。1967 年信徒伝道団・霊満クルセードを設立。国内、ソ連、東欧、アメリカ、東南アジア、北米、南米な

ど 53 ヶ国で宣教。文化大革命下の中国に聖書を搬入。1980 年在欧日本人伝道、1989 年アフリカ・シエラレオネの子供たちを支援するために視察の途上、マラリアに感染し、オランダで召天、享年 76 歳。2012 年伝記「この愛に捉えられて一信徒伝道者・安部哲と霊満クルセード」出版される。

野村和子 埼玉県生まれ。早稲田大学教育学部卒、出版社勤務等を経てフリーライターとなる。「百万人の福音」、「クリスチャン新聞」など人物ルポを担当。編著「愛の絶叫一伝道に命を賭けた森本春子の軌跡」（一粒社）「ミッションバラバと妻たち」（EHC）その他。



主は私の羊飼い、
私は、乏しいことはありません。
主は私を緑の牧場に伏させ、
いこいの水のはたりに伴われます。
詩篇 23 篇 1～2 節

皆様のお祈りに心から感謝申し上げます

安倍 羊子
西平 則子
小栗 満喜子
橋元 多恵子



安倍正則牧師を偲ぶ

理事長 山口 晶久

去る、10 月 5 日に安倍正則先生は 82 歳 11 ヶ月の生涯をひた走りに走り、ゆだねられた命を全うされ天国へ凱旋なさった。安部先生は、本校の設立発起人の一人で協力者であり良き理解者であった。「福音宣教の働きのためには何事もする」。そのスピリットは生涯変わらず、その気骨さに多くの人々が支えられ励まされたかを知る者である。

お嬢様から先日お手紙をいただいた。「父が病に倒れなかったらきっと学校やいろいろなことを山口先生と一緒にやっていただろうと思います。父は、25 年間痛みとの闘いでしたが、主に信頼し祈りの人として歩ん

だ半生でした。危篤の知らせを受けて、たくさんの看護婦さん、リハビリの先生、施設のスタッフの方々がお忙しい中来て下さいました。皆さん、安部さんからいろいろ教えていただきました・・・とおっしゃって下さり、父の姿その存在が“何ができなくとも”証しになっていたことを知り、大変嬉しかったです」と。

1995 年 9 月、病をおして九州バプテスト神学校をご卒業になる。牧師だけはなりたくない。約 35 年間、神様の招きを断りつけて、その後の献身での学びであった。しかし、神様は先生を捕えられ導かれた。「なぜ牧師になりたくなかったのか？牧師になれば、絶えず模範的な生活をしなければならず、いつもにこやかで、寛容で、平気でおられる。そんな人には絶対になれない。だから私にはできない！短気で、よく人を裁き、偽善的な自分、神に喜ばれ、人を愛し、教会員に陰口を言われても批判されても、平気でおられる。そんな人には絶対になれない。

しかし、聖書を読むと、『私の力は弱いところに、完全にあらわれる』（第 2 コリント 12:9）とあり、自分には出来ないが、主がして下さる。自分の力で何かをしようと心の奥底で思っていた傲慢さがはつきりと分かりました。『網を捨てて、素直に従ったペテロ・・・』、この出来事の意味することが分かるまで 30 年かかった私。これから先、私はマタイ伝 5:43～48 を肝に銘じたいと思います。迫害する者のために祈れ、“汝の敵を愛せよ”、『父よ、彼らは何をしているのか分からないのです』と祈られた主。安倍正則は、今日から生きるも死ぬるも主のために。敵を愛し、迫害する者のために努力したいと思います（日吉台キリスト教会季刊誌「若木」投稿文抜粋）」と。

先生は遅咲きの牧師である。牧会も病の

ためにそう長くはなかった。しかし、人の想いと神のなさるみ業はおのずと異なる。「神のなさることは皆その時にかなって美しい」(伝道の書 3:11) ののである。一つだけ言えること、それは先生に与えられたこの地上での使命を神の前に全力で全うなされたと言うことである。「指導者の最後を見てその信仰にならいなさ」。この言葉を今一度胸に収める。良き同労者であった、安倍正則先生を偲び、一人涙する。ご遺族の上に、主の慰めがありますことお祈りします。

創立 30 周年に寄せて ー記念しなさいー

韓国仁川桂川メソジスト教会

元老崔 世雄牧師

この度で日本訪問は 34 回目となります。諸教会で 100 ケ所 160 回以上、みことばを語らせていただいています。お招き下さった本校主催のピスガ聖会も含め 5 回目になり、すべてが神様の御心でありますこと信じます。本校は、創立 30 周年を迎えられました。この記念する式に出席が許されましたことは、個人としましても喜びです。

聖書では、ある物事が起きた時に神様がなさることはいつも「記念する」ということでした。3 つの例を上げてみます。神様は、イスラエルの民を解放なさり自由を与えて下さいました。その時に記念すべき過越しの祭を設け日数までも決められました。今もイスラエルの人はきちんと守っています。2 番目は、イスラエルの民 40 年の荒野の旅では何回も戦争がありました。特にアマレク人との戦いでは負けてしまいます。何故かと言うと、武器もなく訓練もなされていなかったからです。しかし、その戦いに勝利しました。その時、神様はすべてを



講師 崔 世雄師 通訳 金 度完師

書きしるし、記念しなさいと言われたのです。3 番目は、ヨルダン川を陸地のように足で歩いて渡った時です。ヨルダン川から石ころを 12 個拾って記念碑を立てなさい。このように記念し、日を決めて、書きしるし、また記念碑を立てなさいと。

今日、私たちは 2 つの目的を持って集いました。1 つは、信徒聖書学校を立てて下さった神様の御業を、想いを、なお期待することです。2 つ目は、30 年を導いて下さった神様の御業を想い褒めたたえて記念することです。この度の 30 周年記念式は、人間の思いの中で、神様のみ思いが貫かれ備えられたものです。ではなぜ記念しなさいと、神様はおっしゃったのか。3 つの理由があります。絶対に神様からいただいた恵みとみ想いは忘れてはならないということです。イスラエルの歴史の中では、このことを忘れることは、人間以下と言えるひどいことであるとしています。イザヤは嘆きました。「牛や馬さえも自分の主人に従うのに、人間は神様の御業と恵みを忘れてしまう」のは人間だけだと。また、子孫にもこの恵みと御業を忘れて欲しくないということでした。以前、大分県の猿の群れがいる高崎山に行きました。そこには約 1500 匹の猿がいました。そこで親猿は、どうして自分の子供を見分けるのかと考えました。子供は親を知らない。しかし、親猿は子猿を忘れません。どこにいても、自分の子猿を見つけます。このように記念するとは、

私たちの世代も忘れないし、子孫も忘れないと言うことです。神様は、モーセに十戒をお与えになりました。それは、あなたとあなたの子孫も忘れてはいけない戒めとして残すためでした。私自身も2代3代・・・と受け継いで行くことを覚え伝えなければいけません。

次に、私は自らの人生をどのように生きて行かなければいけないかと言う事です。私も記念に値する生き方をしなければならぬ。ここで3人の家庭、その人生について考えて見たいと思います。イスラエル国を統一したのはご存知のようにダビデ王です。歴史的に一番長く国を統治しました。多分、王としてダビデは何100年も生き続けたかったでしょう。しかし、70歳で生涯を終えました。ダビデは死期が近づいた時、王子ソロモンに「わたしはこの世のすべての者がたどる道を行こうとしている」と戒めました。人生は短い、人生はこの手のひらのように短いのです。モーセは120歳まで生きました。彼は、時間は速すぎると告白しました。本当に猛スピードで過ぎ去る。人生は止まらない。ヨブは210歳生きました。人生は、往復切符がない年月です。このような人生を、私たちはどう生きたらいいのか。後悔しないためにも。ある日本人のお医者さんがいました。死を前にした患者さんの面倒を見ておられます。平安な死を迎えるサポートをなさっておられます。このお医者さんが、患者さんにこう切り出しました。「皆さんの人生は悔いが残りませんか？」と。そうするとほとんどの方が「残ります・・・」と答えました。私たちの人生も悔いが残るのであれば悲しいことです。悔いを残さない人生を送りたいものです。

中国の統一王朝に、明という国がありました。第14代万暦帝は、10歳で即位し、48年間皇帝として君臨し、58歳で亡くなり

ました。皇帝は、野望と欲があり死んだ後も、自らが明王朝を治めると。そのために数万人を動員して地下に墓を造らせました。その墓は宮殿のように広く、そこに記念碑を建てました。その石に死ぬ時に、自分が記念すべきことを一つ一つ書きしるしたかったからです。しかし、皇帝は48年間獣のような姿で生きて来た。その石に記念すべきことをしるしたかったが、書こうとする記念すべき言葉が、一文字もなく死んでしまった。結局、一文字も書いていない碑だけが残った。実際に、私が中国に行ってその記念碑を観て来ました。私たちも死ぬる時に振り返ってみて何もない。もしそうであれば悲劇ではないでしょうか。一回しかない人生、記念すべきことがあったものです。

マタイによる福音書26章に、マリヤと言う女性が大事な高価な香油をわって、その香油を、イエス様の頭に足に塗ってやった話があります。イエス様は、この女がしたことは「世界中どこでも福音が宣べ伝えられる所では、この人がしたことは記念として語り伝えられる」と言われました。この捧げられた香油は、一年分の生活費にあたる高価な物でした。それを全部注いだのです。今、出来ることを見逃さなかった。イエス様は、「この人(マリア)を記念しなさい」とおっしゃったのです。

アメリカのハーバード大学に行きました。こんな話を聞きました。1636年一つの集まりがありました。その時、「世界で一番立派な素晴らしい国にするにはどうしたらいいのか？そのためには、アメリカにある教会を建て上げ、教会の指導者を養成しなければならない。教育機関が必要だ」。1637年、アメリカで最初の大学が建てられました。初めは勉強に来る人が少なく経済的に厳しかった。とうとう一年が過ぎ大学を閉じ



南北戦争の戦死者を記念した

メモリアルホール・ハーバード大学
ることになりました。その時です。ジョン・ハーバードと言う 31 歳の清教徒派の牧師さんが結核で亡くなりました。彼は遺言しました。「私の蔵書の全部を、また所有不動産を売った半分を大学に寄付する」と。そのことで大学を続けることが出来ました。このハーバード大学出身者でアメリカ大統領になったのは 7 人、ノーベル賞受賞者は 30 人を超えています。大学のキャンパスに銅像があります。その下に「アメリカの宗教と教育に関して一番貢献した人である」と言う文字が書かれています。彼は、アメリカと人類から記念されて天に召されています。

私は、去る 5 月 12 日にチェ長老という人と一緒に食事しました。その方から素晴らしい証を聞きました。長老のお父さんは田舎の生まれで小学校しか出ていない。お母さんは文字が読めない人だったようです。それで、お母さんは自分の子供には広い世界を見て欲しい。人の多くいる町に引っ越しました。そこで初めて教会に出席しました。その後、そのお父さんは一生教会の鐘を鳴らす役を、そして、お母さんは文字が読めませんので教会の掃除を引き受けました。この夫婦の息子さんは、高校 2 年生の時に、教会の牧師さんの「夢を持ちなさい！」という話を聞き、3 つの目標を立てました。1 つは、一生懸命に勉強し大学教授、博士になる。2 つ目は、大きな会社の

会長になる。3 つ目は、生涯 100 の開拓の教会を建てる。驚くことに、夢は全てかなえられたと言うのです。その人は、ソウルにある建国大学を首席で卒業し、大学教授になりました。その後、会社を興し系列会社をも持つ大企業にします。そして、38 ヶ国に 99 の教会を建て、あと一つとなったと言うのです。皆さんはどのような人生を送りたいと思われませんか？失礼ですが、明日、天に召されるとしたら、あなたは何を書きしめますか？

北九州信徒聖書学校は 30 周年を迎えました。30 年とは重要な意味を持っています。ご存知のようにイエス様は 30 歳の時から公生涯に入られました。洗礼を受け 40 日間断食の祈りをなされた。学校も 30 年を迎え新しい歴史が開かれて行きます。あるアメリカの作家が、このような言葉を残しています。「私たちは歴史を読みながら歴史を創る」と。私たちも今までの 30 年の歴史をみつめながら、これからさらなる歴史を刻むのです。(創立 30 周年記念式 2015 年 10 月 11 日(日))

場所宣教ホームビスガ礼拝堂)

講演・講師 元老 崔 世雄(チエ・セウン) 牧師 仁川桂山(ケサン) 中央メソジスト教会(会員 7000 人)。ジョン・ウエスレー伝道学校初代理事長、日本福音宣教会(Japan Evangelical Mission)代表、基督教大韓メソジスト第 22 代中部中会監督 2007、2009、2012、2014、2015 年と 5 度目の来日となる。韓国国内及び他諸外国で用いられる神の器である。

編集後記

主のご降誕をお祈り申し上げます。天空が澄んだ夜空を見上げた。星明りの輝きは少年のころと変わらない。歲月不待人(歲月人を待たず)である。自らをふり返った。与えられた宣教使命は創立以来変わらない。皆様のご加禱とご支援にあらためてお礼申し上げます。

宣教ホームピスガ建設、導かれ祈りに支えられて進む

主に在る皆様へ

主のご降誕を心よりお慶び申し上げます。

今年、本校は創立 31 周年を迎えています。福音主義に立つ恒久的信徒聖書学校として、誠に小さな働きですが、今日まで継続されてきましたのは、神様の恩寵と皆様方のご支援とご加禱のおかげでありますこと深い感謝を申し上げます。

1985 年、創立当時に福音宣教のために 3 つの素朴な祈りがなされました。第 1 は「聖書学校の設立」、第 2 は「海外宣教」、第 3 は「宣教ホームピスガ建設」でした。毎月第 1 金曜日、実現のために、本校関係者及び同窓会幹事の皆様と共に祈り続けています。

記録によりますと、2000 年 5 月 27 日、「宣教ホームピスガ建設の祈り」は、4 名（青木順之助、鈴木真理子、泉カヨ子、山口晶久）の方々と始まりました。2005 年、学校創立 20 周年記念事業として建設用地取得の募金が始動され、2011 年 12 月、JR 鹿児島本線水巻駅から徒歩 2 分利便性環境良好の土地 598,60 m²を購入。2014 年、祈りから 14 年目入り建設が現実となりました。この事業は、神様から私共に託された使命であることを確信し、信仰をもって建設を着手しました。2014 年 3 月、建設定礎式。同年 4 月、福岡県より許可が下り建設工事開始。そして、昨年の 2016 年 10 月に、関係者が集い第 1 期建設工事完了感謝礼拝を捧げました。

何もない所から、ただ神様の憐みとみ言葉の真実を堅く信じ今日までまいりました。思い返しますと、宣教ホーム建設を心待ちにし、このために祈り捧げられましたが建設を見ず、すでに天上に逝かれた梶山綾子様、菅原寅夫様、青木順之助様、岡 昭雄様、安倍正則様、米国の栗原三郎様。また 2014 年 3 月の建設定礎式にお元気なお姿でご出席下さいました、本校 2 代校長故森上洋介先生。皆様の信仰によるご愛と献身的なお働きを想い起こします。

まだまだ建設途上で必要費用が満たされている訳ではありません。現在、銀行借入金返済途中です。私たちの志と願いを覚えて下さり、引き続きお祈りに加えて下さりご支援を賜わりますならば幸いです。



2016年12月

北九州信徒聖書学校 理事長 山口 晶久
校長 野村 幸生

1. 設置の概要

- (1) 趣 旨 神への敬虔な思いを持って、一人ひとりに謙虚に仕える生活共同体を実現する多目的建物（家）を目指す。
- (2) 目 的 一人暮らしや夫婦暮らしの方で、家庭環境や住宅事情等で、その生活が不安な 60 歳以上の方に入居していただき、利用者の自立を尊重し明るく健康な家庭生活の場を提供する。

2. 第 1 期工事概要

- (1) 名 称 宣教ホームピスガ 設置代表者 山口 晶久
- (2) 建設地 福岡県遠賀郡水巻町頃末南 3 丁目 4 8 - 1 土地面積 598.60 m² (181.07 坪)
- (3) 建 物 木造平屋 第 1 期工事施工面積 121.75 m² (36.84 坪)
①床面積 89.25 m² (27.00 坪) + ②吹き抜け面積 32.50 m² (9.84 坪)
多目的室 (礼拝堂・集会所)・祈祷室、管理室 (居住生活空間 1 名)、
トイレ、洗面脱衣室、浴室等
- (4) 設 計 株式会社夢企画 北九州市小倉北区足原 1 - 1 3 - 2
- (5) 施 工 株式会社コモリ建設 北九州市八幡西区熊西 1 - 1 2 - 1

3. 資金計画 (概算)

◎収 入

- (1) 献 金 1,100 万円
- (2) 募金額 900 万円
- (3) ピスガ建設債 2,500 万円
- 計 4,500 万円

◎支 出

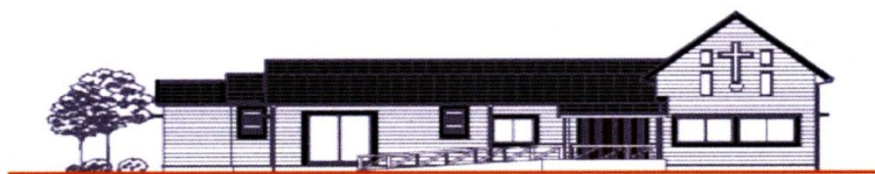
- (1) 土地購入諸費 1,862 万円
- (2) 基礎工事・建築費 2,367 万円
- (3) 設計・監理費 150 万円
- (4) 諸経・備品費 121 万円
- 計 4,500 万円

4. 募 金 額 900 万円

期 間 2014 年 7 月 ~ 2017 年 6 月 (3 年間)

送金方法 北九州信徒聖書学校「宣教ホームピスガ建設」
郵便振替 福岡 01750-4-29786

5. 完成予定図



← 第 2 期工事 + 第 1 期工事 →